

『Re』 の仕事



OTANIマン



OTANIエンジェル

あなたの環境をECOに繋げるお手伝い
大谷清運株式会社
Otani Seiun
フリーコール 0120-965-554



Otani Seiun

CSR レポート 2018

〒125-0032 東京都葛飾区水元1-3-13 TEL.03-3600-5561 FAX.03-3600-5563
E-mail/info@otaniseiun.com http://www.otaniseiun.com



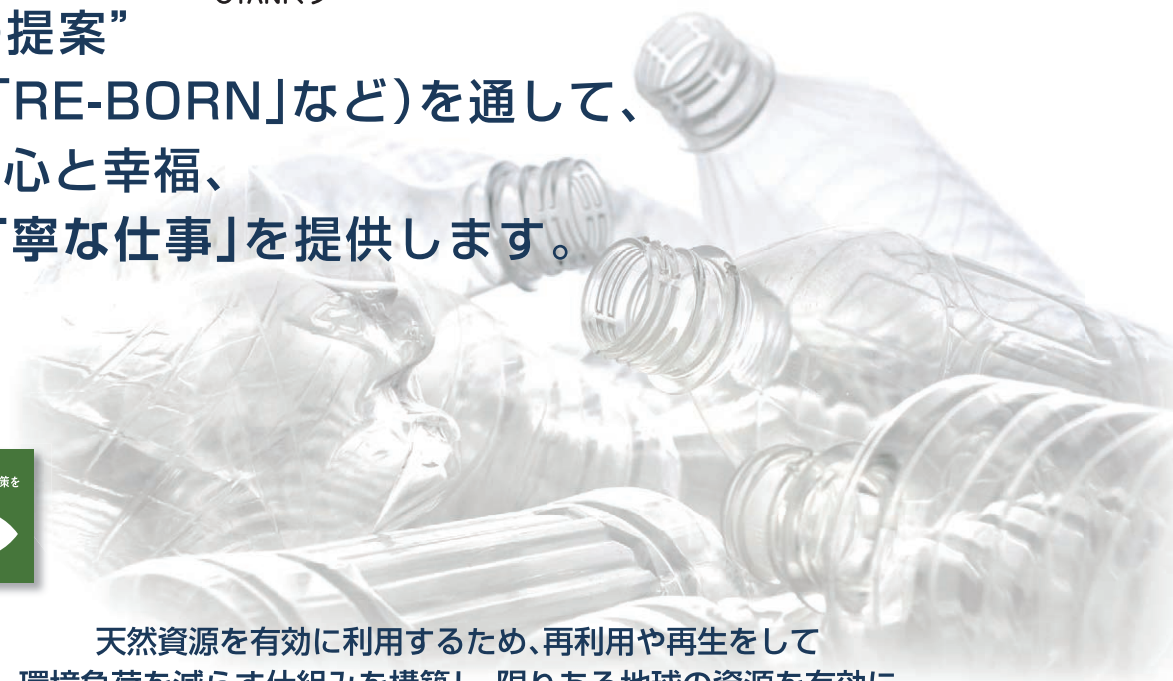
OTANIエンジェル

クリエイション Re-Creation



OTANIマン

私たちは“Re のための提案”
(Reduce、Reuse、Recycle、「Re・Slim」、「RE-BORN」など)を通して、
当社に関わる全ての人々に安心と幸福、
そして利益をもたらす「真心込めて 愛ある丁寧な仕事」を提供します。



天然資源を有効に利用するため、再利用や再生をして
環境負荷を減らす仕組みを構築し、限りある地球の資源を有効に
繰り返し使う循環型社会を目指しています。
世界的な問題となっている廃プラスチック処理にも積極的に携わっています。
いまの社会をより良くするために、
私たちに何ができるかを常に考え、実践していきます。



『Re』に対する思い。 それはモノを、一人を大切に作る心。



生活をデザインし直す、「Re・Slim」の考え。
それが「Re」の起点。

大量生産、大量消費、大量廃棄の時代に育ち、
ホテルニューオータニで販売促進の業務に10年勤務。
そして父が創業した会社、大谷清運(株)に入る際、考えた。
モノを大切にしてきた日本人の生活ライフスタイルをもう一度見直してみたい。
「生活を今一度、スリムにする」との思いを込めて企画事業部「Re・Slim」の設置を提案。
ごみは元々ごみとして存在していたわけではない。大切な資源。
捨てることは最終手段。資源にできるモノをもっと増やしていきたい。
ウチに来たものは、できる限り「よみがえらせる <Reborn>」
その考えのもと、工場名も「RE-BORN(2000年)」「RE-BORN2010(2010年)」と
命名しました。

働きたい人が働ける場を提供したい。

働きがいのある人間らしい仕事(ディーセントワーク)。
誰も置き去りにしない社会を実現させるために、個人の差異を受け入れる。
女性が活躍できる職場、働く機会が少ない障がいを持った方達、意欲はあっても
仕事に限られる高齢者、日本社会に壁を感じてしまう海外の人、
仲間や家族のような温かい職場で誰もが働ける会社でありたい。

女性の活躍？ ピンとこない。

男社会の業界。経営層が女性であるから、女性の働きやすさも特別ではなく「当たり前」。
世間が言うほど、女性の労働に対して神経を使うこともないし、意識もしない。
男性も女性もそれぞれの環境で、まずはできることを理解し合って
一人ひとりが最善を尽くす!! そして一人ひとりが成長することが大事、
それが会社の成長だと思う。

代表取締役社長

二木 玲子

RECYCLE の仕事



今後手がけていきたい『Re』の仕事とは

ペットボトルや食品トレイなど、プラスチック製品は今の生活にごみにすれば環境汚染につながる廃プラスチック。大切な資源を再生させ、再利用へつなげ、一部を新たな製品として。今後はそれをさらに推し進め、資源を創り出していきます。

欠かせない。

生まれ変わらせています。



業務部・環境事業部 次長 小川 大介

2017年、中国がプラスチックごみの輸入を禁止しました。行き場のなくなったプラスチックごみは、現在、バングラデシュなどの東南アジアに流れています。その量の多さに現地の対応が追いついていません。山で燃やしてしまったり、海に捨てたりするケースがニュースとなり、環境・海洋汚染が世界的な問題となっています。

欧州連合(EU)はプラスチックストローを全面禁止とする方向性を定め、日本でもスーパーのレジ袋は有料になりました。プラスチックごみは、今や世界のやっかい者です。でも、きちんと処理すれば資源として再生できるんです。その資源にするための処理を行っているのが、私どもの工場です。

運輸課が、行政やお客様から資源を収集してきます。回収したモノをRE-BORNで資源物と廃棄物に選別します。ペットボトルはキャップを取り、ラベルをはがし、ボール(圧縮梱包)に仕上げます、それを再生化する工場へ運びます。ペットボトルの中間処理施設が第一工場、RE-BORNです。

第二工場のRE-BORN2010では、中間処理のほか、廃プラスチック・紙くず・木くずを原料に、固形燃料のRPFを製造しています。ここはごみが製品になる、再

資源化設備も備えています。

資源を運ぶ、処理する。どちらも大谷清運(株)の支柱ですが、どちらか片方が多くなってもうまくいきません。運搬に力を入れると工場がパンクするので、そこはバランスを見ながら日々調整しています。

社長が、落ちていたペットボトルを拾って「これも再生できるでしょ」と、キャップを外し、大切にしようと思った精神が、この会社のスタッフ全員に根付いています。ごみは再び蘇らせることができます。ペットボトル1本1本を大切にリサイクルしていく。資源を再生する仕事は、地味で手間がかかりますが、お客様から、「やっぱり大谷さんだね」と言われる仕事をしていきたいと思います。

私のスタートはペットボトルのリサイクルからでした。15年経ったいま、それをさらに進化させたい。使い終わった1つのキャップを、もう一度人の手に渡し、役に立つモノにしていきたい。再生への夢です。再資源化を一步進めて、モノを再生させる、何かを作りだすことに今後チャレンジしていきたいと思っています。

自分たちが道を作って、子供たちの世代に繋げていくこと。未来へ続く資源化の流れを作る。それが私がこの仕事を通じてやり続けたい社会貢献です。



RE-BORN 副所長 霜島 裕一

その日、搬入されたモノは当日中に処理を行い、ストックヤードに物がたまっていることのない状態でその日を終わらせたい。常にきれいな状態で、分別もきっちりとして次の工場へ渡す。うちに任せてもらったモノは再資源化100%を目指しています。

省資源から創資源へ

限りある資源を再利用し、再び生まれ変わらせ、有効利用できる資源へ環境に負担をかけない資源循環型社会の実現へ向けて、RE-BORN、RE-BORN2010 2つのプラントがそのお手伝いをしています。



RE-BORN2010 所長 田島 智子

現代はモノが溢れていて、何でも使い捨て。これを見直すのは難しいことですが、この工場では、再生の最終工程の固形燃料まで作れます。周囲の美化にも気を配りながら、1つでも多くのモノが再利用できるよう、みんなで丁寧な選別をしています。



まず、自分たちの職場から 働きやすくする『Re』

本社は月に1回第二土曜日に仕事の終了後、皆で職場を清掃する活動を実施。そのリーダーたちを「環境整備隊」と命名し、取り組んでいます。環境整備隊の活動は職場の改善活動であり、個々人の「気づく力」を高めることを目的としています。

環境整備デーは清掃を通して社内コミュニケーションの向上にもつながっています。きれいな職場は気持ちが良いし、会社の周辺の清掃も行っていますので近所の方からも喜んでもらえます。喜んでもらえるとうれしいし、やりがいも感じられます。真心こめて愛ある丁寧な仕事については、自分がよいと思っても相手はどう思うかが大事です。自分よりではなく、相手の気持ちに気づいて真心込めた対応を心がけています。



経営管理部 係長
岡本 智恵



運輸課 リーダー
千本木 泰貴

環境整備隊として、汚れている場所、車等をチェックし、きれいにしてもらうよう働きかけています。また、月に一度、ミーティングを実施し、前回の反省や次にどのようなイベントを行えばさらに皆が意識をもって取り組んでくれるかを検討しています。お客様に迷惑を掛けずに物事をスムーズに終わらせる。お客様以上に理解力を高めることが、真心込めて愛ある丁寧な仕事ととらえています。



未来を支える子供達に 『Re』の精神を伝える

「リサイクルの大切さ」を理解してもらい、「自分の意識でリサイクルを進めることができる」「一人ひとりの意識の改革で未来を変えていくことができる」この思いが少しでも伝わるように、親しみやすく分かりやすい説明を心がけています。



近隣の小学校の子供たちに環境学習を行っています。4年生が対象なので、生活に即した分かりやすい授業を心がけています。家庭から出たごみが、実際にどう処理されるのかを、目で見て触る実体験ができるので、参加した生徒さんが、ご家庭や周囲の人に工場で学んだことを話して、リサイクルの輪をそこから広げてゆければ、と思っています。

子供たちからの質問や意見を聞くと、普段は見えていなかったことに気づかされます。私のほうも教えられたり、学びきっかけをもらったり、とても有意義な時間です。

これからの時代を担う子供たちが、リサイクルの意識を高めて、未来を循環型の社会へと変える一歩になれば、それが私の喜びです。



社長室 遠藤 弘子

2018年度
CO₂
排出量



日本
1,150.06百万t
(1,173.41百万t)
世界
33,684.94百万t
(33,039.70百万t)

地球温暖化対策を推進するため、CO₂削減に向けて積極的に努めて参ります。

資料:GLOBAL NOTE 出典:BP(世界、日本CO₂量)

()内は2017年度

大谷清運(株)	
本 社	22t (31t)
RE-BORN	208t (117t)
RE-BORN2010	63t (62t)
合 計	293t (210t)

2018年度
CO₂
削減



2018年度
CO₂
削減
RE-BORN2010
1291t
サーマル施設
発電電力量
888,619kwh
スラグ生成量
94t

RE-BORN2010では工場内で処理できなかった廃棄物をサーマルリサイクル(熱回収)し、発電、スラグ生成でさらに再生化しています。

出典:J&T環境株式会社(2018年度分)より

大谷清運2018CSRレポート作成プロジェクトに参加して

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 環境・エネルギーゼミ3年生



藤田 華帆
CSRレポートの制作に携わらせていただいて、貴重な経験となっただけでなく、企業の方々と関わることができて、とても勉強になりました。また、このプロジェクトを通して、より多くの方々に大谷清運様の取組を知っていただきたいと思います。



大場 愛海
今回、大谷清運様のCSRレポートを作成する中で、工場見学や社長インタビューを通してSDGsに熱心に取り組んでいることを知りました。また、その過程で私自身もSDGsの理解を深めたので、今後SDGsで掲げている目標を達成する一員になりたいと思いました。

斎藤 三和
リサイクル事業に熱心に誇りを持って取り組んでいる姿を社員の方や二木社長のお話から知ることができ、多くの方々に知っていただきたいと思います。またCSRレポートの作成に携わったという貴重な経験を今後に生かしていければと思います。



板垣 茉耶
私は以前から企業が行う社会貢献に関して興味があり、今回のプロジェクトに参加しました。工場見学やインタビューを通じ、仕事に対する愛や環境問題に取り組む熱意をとても感じました。これらの経験から私は、本気で働くことの素晴らしさを実感することができました。



紫藤 まりあ
このプロジェクトに参加し、物事を主観的、客観的の双方から見ることで得られる意識の差異に気がつきました。このような形で企業の方と向き合う機会は今までになかったので、とても良い経験になりました。

角田 亜衣
大谷清運様のCSRレポート作りに携わり、とても充実感を感じることができました。社会人の世界に一歩足を踏み入れるのは少し不安ありましたが、学生のうちにこのような貴重な体験ができたことを嬉しく思います。



山崎 彩由奈
今回のプロジェクトを通して、インターンシップでは知ることのできない企業の姿を見ることができました。企業を見る上での視野を広げられたと思います。この経験を今後の就職活動に活かしていきたいです。



第三者による評価



「Re」の様々な事業はSDGs達成への確実な進歩である

実践女子大学
生活科学部 現代生活学科
菅野 元行 教授

博士(工学)、エネルギー・環境エキスパート(産業環境管理協会)
専門領域: 環境科学、エネルギー科学、環境化学、エネルギー資源化学、有機化学

主要な環境問題の中でも、地球温暖化、エネルギー、廃棄物の問題はお互いに密接な関係がある。LCA※1の観点から、廃棄物の中でもプラスチックからエネルギーや再生品を得ることで、新たな化石燃料の投入量を低減できるだけでなく、プラスチックのカスケード利用にもつながり、CO2の排出量も抑制できる。

以前はほとんど注目されていなかった海洋プラスチックの問題や、アジア諸国におけるプラスチック廃棄物の輸入規制が近年、急激にクローズアップされている。その結果、ワンウェイプラスチックの低減は、今やどの業種においても経営体で喫緊に解決すべき問題になっている。

このような現状にも関わらず、大谷清運ではすでに従前の事業で3Rに加えてRE-BORN、さらに環境整備や環境教育の事業を通してRe-Slimまで活動の幅を広げている。従って、SDGsの17個の目標の内、8、11、12に加えて4を追加し、さらには7や13にも着手されており、企業としてのSDGsの達成に確実に歩を進めていると言える。[経営層が女性のため、女性の働きやすさも当たり前]という二木社長のお話はもちろんのこと、大谷清運の今後の事業の進展に期待している。

※1 ライフサイクルアセスメント

ECO REPORT WAY 21 による評価

ECO REPORT WAY 21とは武蔵野大学工学部環境システム学科の学生が2008年より10年にわたって取り組んできた活動。企業が発行する環境・CSRレポートを学生が独自に作成したリクルート視点の「21の指標」に基づき評価・分析し、企業へ報告・意見交換を行ってきた。 <https://erw21.jimdo.com/>



評価項目 評価 好意 好意を抱く点 改善 改善を望む点

人権	2	好意 社長コメントのように、女性社員が男女差異なく働いていることがみえてうかがえる。
	改善	社長コメントで、女性や障がい者にも配慮した職場を目指している精神は素晴らしいが、実際の取組みや制度について記載がほしい。
労働	2.5	好意 環境整備デーを通じて社内や近隣住民の方々とコミュニケーションの向上が図られているのが好印象。また月に一度のミーティングにより、社員の「気づき」や社員の意識向上に努めているのが好印象。
	改善	労働基準として、労働時間の是正や雇用形態の内容を数値とともに欲しい。
環境	2.5	好意 小学生を対象とした「環境教育」を行っており、次世代を担う子供たちに対してこのような活動を行うのは、持続可能な社会を目指す上で素晴らしい。また実際に環境学習の際に小学生から受ける質問や意見をも参考にし、より良い未来を作るために活動しているのが好印象。
	改善	CO2の排出量、削減量についての記載があるが、比較対象がないためわかりにくい。
腐敗防止	1.5	好意 具体的な数値でCO2排出量や削減量が記載されていて、読者が一目でわかる。
	改善	会社として、統合的なマネジメントシステムの全体像があるとよい。

総合評価
2.1
3点満点
UNGC※2の4原則とSDGsの17のゴールを上手くマッピングさせ、自社の事業活動に落とし込めていて素晴らしい。また各ページのQRから動画を見ることができ、実際に学生が質問し、社員が回答するといった質疑応答の形がとられていて非常に分かりやすい。

※2 国連グローバル・コンパクト